

時事新報

國會奇談 (昨日の續) 筑陽生寄稿

此時議長ルッス氏は激しく鈴を鳴しおからず。否々拙者は議長の職権を以て陸軍大臣たる足下に言論の中止を命じたり申すまでもなき事あれども議長自身の發言する場合に議員諸君は靜肅してこれを聽くべきは議場の整理を計るが爲めに欲可らず議長を列する諸君は言ふに及ばず傍聴席の諸君も議長を命じ依て進退すべき者あれば若し法則を破りたる人あるに於ては拙者は議長の資格を以てこれを責するに權利あり義務なれども前の發言者(ルッス氏)の陳述は言論正當の範圍を超えずして聊かも場則に觸れざる者と認めたるが故に敢てこれを問はざりしなり(左黨の議員は頻に喝采し右黨よりは不平の叫を發す)此儘か分り成りたる可ければ議長より更に改めて發言を許し申さん

大臣はますます怒りの聲を擡げ

議長足下が我王國政府の大臣に對し發言を制するの權利ありと主張せらるるは奇怪至極と云はざる可らず拙者は飽くまでも之に反對し自由に辨論を爲す覺悟として前々にもビスマルク公の明言したる如く議長の權利は大臣の閣際まで及ぶものとならんと雖も我々の座席をして議長足下の支配の下に立たしむるの不當あるは拙者の信じて疑はざる所なりと

是に至りて左黨員は非常に激してルッス氏を攻撃すれば右黨員は又反して又頻に反對黨を嘲弄し二百餘名の議員は銘々勝手に發言放論を試みて議長も其始末に究せり

議長が發言者の言論を中止し若くは又議場の喧擾を鎮めんとする場合に於ては通常は鈴を鳴らして其命令を傳ふれども争論の熱愈々熾するに至りては尋常鈴子の響を以て制す可らざるが故に議長は別に退散の徽章を附しる帽子を冠り議事の中止を報ずること普通西議院の法なればボックムルッス氏はロイン氏の激論の到底制す可らざるを察し例の帽子を冠りたるは其寸尺過大にして頗る没しズル一掃べりながら眉目鼻口を山嵩の帽子の中に埋められたれば容易に脱せずルッス氏の狼狽は言ふに及ばず自由黨の議員は悉く反對黨の惡手段を偵みり且つ笑ひ且つ怒り議長を退たりと云ふ

右の騒動にて諸大臣も一旦議場を引揚げ直に内閣會議を開き國會議員が議長の制裁の下に立つは兎も角も我々諸大臣は皇帝の命を奉じ其委員として議場に出る者あるを併てこれを彼れが配下に置かんとするは無禮も亦甚しと云ふ可し今後の關係大なるが故に内閣大臣は議長の支配下に在るに非ざれば自ら議長又出席して原案を説明するの責任を免かれたりとの議に決し其旨を議長に通知したるは議長は又々動搖し凡そ議場内に於ては議長は職權の及ぶ所に制限ある可らず畢竟内閣大臣の舉動は國會を輕蔑しざる無禮の處置なりとの論多數なれば雙方の折衝就かすして與論はますます熾するのみ是に於て國王陛下の上裁を仰ぎたるに陛下は内閣の措置を正當と認め給ふ意ありとて諸大臣は皇帝の威光を假り物議を鎮めんと圖りたれども議長は不平を訴へ國王に上書し内閣諸大臣の行爲を非難し「今回の事の如きは當路大臣の罪責なれば陛下に於て斷然内閣を罷免し給ふべきは勿論更今日日の機

に乗じ内閣全體の組織に變更を加へ議院を對して責任を負はしめざる可らず」と奏請したるに陛下は更に國會を宛て長文の諭書を發し議院の抗言は寧ろ慮慮に叶はざる次第を述べ書中「朕ハ諸大臣が議院ノ侵權ニ抗シタルノ功勞ヲ感謝ス朕ハ天帝ノ補助ヲ以テ王室ト人民トノ間ニ存スル忠義ノ氣ヲ素可キ彼ノ有罪ナル行爲ヲ打破セシムル望ム」等の語句を交へ逆を議院を誹責したるより人々今は勅令の犯す可らざるを察して議員は敢北と覺悟を極めたれども翌日より諸新聞紙の論議は孰れも熱度を増し激烈に諸大臣を非難し人心の煽動限りなきの勢なれば政府は頻に發行を停止し或は又嚴責を加へて輿論を鎮めんとしたれども情實既に此の如し人民の不平抗論熾にして加ふるに國會議員新聞記者の激刺亦頻りなれば皇太子の宮(獨逸先帝)は官民の輿論より遂に騷擾を醸して其煩を王室に及ぼさんことを恐れ頻り父君(故の獨逸老帝)に奏して威嚇手段を用ふるの非なるを陳辨しれども一方は首相ビスマルクの堅く取て聽かざるが爲め其議論行はれずして唯輿論のみ増加したり (未完)

○東京府令第六十二號

東京府原郡下九子村飛地字川向段別六町八畝十四歩ヲ神奈川縣橋本郡中九子村へ編入ス

神奈川縣橋本郡中九子村飛地字川向段別五町四段六畝九歩ヲ東京府原郡下九子村へ編入ス

明治廿一年十一月六日 東京府知事男爵高崎五六

○學生卒業 帝國大學醫科大學醫學科學生七名は今回卒業試問に及第し醫學全科を卒業せり其氏名左の如し(文部省)

岩手縣士族 梶田 恭一郎 東京府平民 石井 龜次郎

石川縣士族 遠藤 外三郎 千葉縣平民 今井 通

東京府平民 近藤 常次郎 富山縣平民 小澤 弘

愛媛縣士族 野田 義 助

○東京醫術開業試驗 本年第二回東京醫術開業試驗は去月一日より十日に至る十日間大谷派本願寺淺草別院に於て學說試驗を舉行し同十三日より去る一日に至るまで十五日間東京慈惠病院に於て實地試驗を舉行す出願者總數及受験者出席人員及第落第等は左の如し(内務省)

出願總人員千九百三十二人

受験者千三百三十一人

此外八百一人は疾病事故等に依り出席せず

前期受験者七百三十八人 退場を命ぜられたる者二人

中途缺席の者十八人 落第者四百八十八人

後期受験者三百七十七人

中途缺席の者一人

及第者百八十九人 落第者百八十七人

齒科受験者十六人 落第者九人

○水戸鐵道の將來 前號に記する如く水戸鐵道は既に試運轉を終りて遠くらず鐵道局の試験を経次第客車の定時往復を始め得べきまでに達せり今後日本國內の公道を走るもの又或は水戸より二里餘を離れたる大洗(大洗は都人士の海水浴場に最も佳なり)に海水を浴びて三日の熱を知らぬ間に過さんとするもの等は東京より一日にして往復するを得べし獨り文墨の客が書跡を尋ね富貴の客が遊山見物を爲すは便利あるのみならず去月廿七日始めて土工用列車の水戸に達するを得てよりは俄かに新炭其他東京に運送して販路を得べき物品の價を騰貴し大に舊様を改めたるよし水戸鐵道は限らざる事ながら線路の達する所も物産を興し便利を増すは文明の利器の餘澤と云はん併し水戸鐵道も只だ同市に達したるまでして他の地方より此線路を利用せんとするもの顯はれ出づるをあらすんば幾分も繁昌の度を限るの懼みあるべけれども茲も同線路の爲め將來大に望みある一事あるは元來磐城七郡より東京に往復せんとするものは濱街道を傳ふて水戸より出づる或は白河、郡山等に出で東北鐵道に依らざるべからず然るに直ち東北鐵道を利用せんとする時は山脈を横斷するの不便あり又費用の點より云ふも水戸までの鐵道既に落成したる以上は濱街道を取る方便利なり故に福嶋縣にては十二萬四千圓の費用をかけて其道路を修築するものと決し茨城縣へも照會して改築の事を請求し既に同縣會常置委員は其議を贊成して豫算を組立て目下開會中の縣會に於て議決する等なれば原案若し行はる時は宮城縣の境より水戸まで達するまで二縣の道路不日成就して磐城全國は概して濱街道の益々便なるを頼むに至るべし而して一方の海路は磐城小名濱及び全平地方より常州那珂港まで濱船の往復は開き那珂港を改築して大濱船の入港に便にし且小濱船は那珂河を溯る里餘にして水戸鐵道線路の終る所へ濱船を横付けにすることを得せしめ以て荷物の運搬を盛んせんとすの計畫ありといふ始め水戸鐵道敷設の極端は細町停車場までとする等なりし中頃少しく議を變じて那珂河畔まで敷設するものとしたりは全く右計畫あるの故にして前記の海陸兩路開けたる後は同鐵道の利益は今日想像の比にあらざるべしとの事なり

○羅漢寺の寄附品 豊前國那馬漢は頼山陽が耶馬漢山天下無と詠したる絶勝の地にして其溪間に在る羅漢寺は山中腹まで二十間四面の本堂を岩窟中に建立し又其近邊には岩窟間に無數の石羅漢を安置せる絶奇の靈場なるが羅漢以來退々保存の道絶之寺僧等は彼是其方法に付考慮中なるものと會て紙上に掲載せしが右の羅漢寺は九州地方名高き古刹なれども實物類は大抵昔時大友宗麟の亂に燒棄されたりとて今現存せる物は僅に數種に過ぎざるより寺僧等は漸次蒐集の事を注意して怠らざる折柄今度末松謙澄氏も其需より豫て所藏の畫幅中より九字曼陀羅一幅涅槃一幅普大師一幅(孰れも大幅)及び八祖大師像八幅合計十一幅を寄附しざるよしにて退々諸方より篤志者の寄附あるべき等なりと聞く

○今日の附録 同志社長新嶋襄氏は夙に一私立大學を設立するの志あり明治七年の末米國より歸朝せしより以來十數年絶えず其事に盡力し既其同志社の事業も日に月に進歩し高等中學同様と爲さんとするの氣運も迄起きたるを以て從前の同志社の事業のみに止めず愈々進んで豫ての素志ある大學設立の望を達せんとて去る四月以來京都始め東京横濱間の諸紳士に向て贊成を求めし大隈、井上、勝、後藤、青木、榎本等諸氏を始め諸紳士紳商の贊成する所とすり數萬圓の寄附金を得るに至りしのみならず遠く米國に於ける氏の朋友より六萬弗の寄附を申し込みし程も漸く内外の贊成を得て其事の略ぼ就きたるを以て益々奮勵其志を成さんと熱心し此度之を滿天下と訴へんとて即ち本日

附録を以て 的等を世上云ふ

○大坂に於て 我國のの 方便も千緒 たる善真の 少しとせず 風せざる可 可らざる 業の方針 しくは進化 あり此等大 當業者の開 ざる所なり 々夜々其 究はむる 至る可けれ 病人の如し 遺傳の 諸難状を 容態のみを 心を得る 是當業者た こと云ふ一 の事たる獨 態に於ては 態に於ては 所を明ら 制し互其 つも忘れ 思考す世間 護を大切と 治の事行は ならず徒ら 政府の手に なるものな のなればな 論其員數も べし今後互 反省し自ら 反省し自ら 爲め勤め 工業現在の 委細の事は 今之れを聽 大學通俗講 健康にして 金を損する 損するに 又た損失に 險の利益功 用心すべき も其價の高 千の保険料 を爲すも益 るの危険あり れども保險 取るも西 産する事も 關する危險 命の事好 命保險に 誠必要にして 險するに付



和漢洋古本 高價買入廣告

御用ノ品ノ多少御所遺近チ不論出賃

神田佐柄木町但淡路町交番所向精英堂出店

一手特約廣告

生備去月廿三日無恙當地へ着仕候間此段己ノ諸君ニ告ク

明治廿一年九月 醫學士 柴由耕

病

來診チテ方 御通知成下